

ねん がつ にち
2020年5月3日
ふっかつせつだいのんしゅじつ
復活節第四主日
きくちいさおだいしきょう せつきょう
菊地 功 大司教 ミサ説教

ひつじ ひつじか こえ き わ ひつじか こえ とど
羊が羊飼いの声を聞き分けるためには、羊飼いの声が届かなければ
なりません。

きょうかい きょうかい たてもの ていきてき しんと あつ きょうどうたい
教会は、教会という建物に、定期的に信徒が集まることで、共同体
いじ ぼくしゃ こえ きょうかい しざい つう
を維持してきました。牧者であるキリストの声は、教会の司祭を通じて
とど ひと ぼくしゃ こえ とど
まず届けられ、わたしたちはそこからさらにすべての人へと牧者の声を届
けようとしてきました。

こんばん じたい はっせい きょうかい ぼくしゃ こえ とど しゅだん
今般の事態が発生し、教会は牧者であるキリストの声を届ける手段
うしな いちばんかくじつ きょうかい あつ つう
を失いました。一番確実だった、教会に集まってくるみなさんを通
ぼくしゃ こえ とど ほうほう
じて、牧者の声を届けるという方法をとることができなくなりました。
かんせん さ しゃかいてきぎより かぎ じたく
感染を避けるために、社会的距離をとることや、できる限り自宅にとど
もと しゃかい ひと かか ほうしかつどう つう
まることが求められ、社会での人との関わりや、奉仕活動を通じて、
ぼくしゃ こえ とど こんなん しょう
牧者の声を届けることに困難が生じています。

きょうかい こんらん しゃかい ぼくしゃ ことば とど にちやふんとう
教会は混乱する社会に、牧者のいのちの言葉を届けたい。日夜奮闘
いりょうかんけいしゃ ぼくしゃ はげ ことば とど びょうしょう
する医療関係者に、牧者の励ましの言葉を届けたい。病床にある
ひと ぼくしゃ い なぐさ ことば とど
人たちに、牧者の癒やしと慰めの言葉を届けたい。

ぼくしゃ こえ すこ とど しゅじつ
そこで牧者の声が少しでも届くようにと、カテドラルから主日のミサを
はいしん たと せんしゅう にちようび はいしん
インターネットで配信しています。例えば先週の日曜日のミサは、配信
じてん ちゅうけい ひと み ご さいせい
された時点の中継で七千人ほどのかたが見てくださり、その後再生さ
かいすう にまんかい こ
れた回数は二万回を超えています。

その数字は確かに、多くの方が見てくださっている証左ではありますが、同時に、教区全体の信徒数と比較すれば、ごく一部の方々に過ぎません。すなわち、インターネットを通じて、牧者の声は、一定数の方々には確かに届いているのですが、それ以上に、例えば教会共同体にはインターネットにアクセスすることのできない方も多し。この事態にあつて、牧者の声から除外されている人たちが、多くおられることに、心を痛めています。なんとかひとりでも多くの人に、牧者の声を届け、さらにはすべての人に希望と励ましの主キリストの声を届けたい。そう思います。

教会は復活節第四主日を、世界召命祈願日と定めており、司祭や修道者への召命のために特に祈りを捧げる日となっています。例年であれば、教区の一粒子が主催して、この日の午後にカテドラルでは、神学生や志願者を招いて召命祈願ミサが捧げられてきました。残念ながら、今年のみさは中止となりましたが、あらためてみなさまには、司祭・修道者への召命のために、またその道を歩んでいる多くの方のために、お祈りくださるようお願いいたします。

教皇様は、今年の祈願日にあたって発表されたメッセージに、こう記されています。

「主がわたしたちをお呼びになるのは、わたしたちを『水の上を歩く』ことが出来るペトロのようにしたいと願っておられるからです。水の上を歩くとは、主が示される具体的で日常的な方法で、とりわけ、信徒、司祭職、奉獻生活のさまざまな形態の召命を通して、福音のためにささげるものとして自分の人生を手にする事です。」

すなわち、召命を語ることは、ひとり司祭・修道者の召命を語ることにとどまるのではなく、すべてのキリスト者に対する召命を語ることでもあり

しさい しゅうどうしゃ しんと いく
ます。司祭・修道者の召命があるように、信徒の召命もあることは、幾
く かえ
たびも繰り返されてきたところです。

だいに こうかいぎ きょうかいけんしょう しる
第二バチカン公会議の教会憲章に、こう記されています。
しんと こゆう げんせてき じゅうじ かみ したが
「信徒に固有の召命は、現世的なことがらに従事し、それらを神に従
ちつじょ かみ くに さが もと じぶんじしん つと
って秩序づけながら神の国を探し求めることである。自分自身の務め
は ふくいん せいしん みちび よ せいかに
を果たしながら、福音の精神に導かれて、世の聖化のために、あたかも
だね ないぶ はたら
パン種のように内部から働きかけるためである」(31)

しさい しゅうどうしゃ しょうめい くわ しんと しょうめい ふか
いまほど、司祭・修道者の召命に加えて、信徒の召命を深める
ひつよう ぼくしゃ こえ ひと
必要があるときはありません。牧者であるキリストの声を、すべての人に
とど しゃ はたら ひつよう
届けるためには、キリスト者の働きが必要です。

じぶんじしん つと しゃかい なか は だね ないぶ
「自分自身の務めを」社会の中で果たしながら、「パン種のように内部
はたら しょうめい い ひと ひつよう
から働きかける」召命を生きる人が必要です。

ふくいん せいしん みちび よ せいかに しょうめい い ひと ひつよう
「福音の精神に導かれて、世の聖化」のために召命を生きる人が必要
です。

きょうこう し とてきかんこく よろこ よろこ しゃ
教皇フランシスコは、使徒的勧告「喜びに喜び」で、キリスト者が
せいせい い ひつようせい と つぎ しる
聖性に生きることの必要性を説きながら、次のように記しておられます。
せい もの しぎょう しさい しゅうどうしゃ ひつよう
「聖なる者となるのに、司教や、司祭、修道者になる必要はありま
せいせい にちじょう はな いの おお
せん。わたしたちは聖性が、日常のもろもろから離れて、祈りに多く
じかん さ ひと おも
の時間を割くことのできる人だけのものだと思ってしまうがちです。そう
お ば にちじょう ぎつむ とお あい
ではありません。それぞれが置かれている場で、日常の雑務を通して、愛
も い じぶん こゆう しめ せい もの
を持って生き、自分に固有のあかしを示すことで聖なる者となるよう、わ
みな よ
たしたち皆が呼ばれているのです」(14)。

せい もの かんが ひんこうほうせい りっぱ い かた もと
聖なる者となる。考 えてみれば、品行方正で立派な生き方をせよと求
められても、そんなに社会の現実しゃかい げんじつ かんたんは簡単ではないと、おもわずひるんでし
まう呼びかけであります。しかし 教 皇フランシスコは、聖性せいせいとは単に 掟おきて
をよく守った上で品行方正ひんこうほうせいとなることではなくて、「聖性せいせいとは、完全かんぜんに
愛あいを生きることにほかならない」と指摘してきしています (21)。

ふあん ま ききかん つの み まも ところ くだ たしや
不安が増し、危機感ききかんを募らせ、身を守ることに 心こころを砕くあまり、他者
への思いやりおもが消え、殺伐さつぱつとした雰囲気ふんいきが感じられるいまの社会しゃかいだから
こそ、わたしたちは愛あいに生き、愛あいを伝えたい。

あい にんたいづよ あい なさ ぶか あい じまん たか
「愛は忍耐強たいづよい。愛は情け深ない。ねたまない。愛は自慢じまんせず、高ぶら
ない。礼を失れいせず、自分の利益じぶん りえきを求めず、いらだたず、恨みうらを抱かだない。不義ふぎ
を喜よろこばず、真実しんじつを喜よろこぶ」(1コリント13:5-6) と記されたコリント書しるの
ことば おも だ あい いま じだい ひつよう
言葉を思い出します。その愛が、今の時代に必要ひつようです。

こんなん じょうきょう なか ほんろう まいにち さき すす
困難こんなんな状況じょうきょうの中で翻弄なされながら、わたしたちは毎日まいにち、先へ進すすも
うと努力どりよくを続つづけています。誰ひとりとして将来だれを見通しょうらいすことができな
い中で、わたしたちは闇雲なに彷徨やみくもっているわけではありません。牧者ぼくしゃであ
る主キリストは、羊ひつじであるわたしたちの名なを呼よんで、後あとについてくるよう
にと招まねかれています。羊ひつじの門もんである主キリストは、緑みどりの牧場ぼくじょうへ至いたる道みち
を示しめしてください。

おお こんなん なか きき ちよくめん
いまわたしたちは、大きな困難こんなんの中でのいのちの危機ききに直ちよくめん面めんしているから
こそ、牧者ぼくしゃである主キリストの聲こえを、ひとりでも多くの人おおに伝えること
が不可欠ふかけつです。

かぎ おお ひと ぼくしゃ こえ とど しめい い ひと
だからこそ、できる限り多くの人おおに、牧者ぼくしゃの聲こえを届とどける使命しめいに生きる人
が必要ひつようです。司祭しさい・修道者しゅうどうしゃの召しょうめい命ひつようが必要ひつようであると同時に、まさし

いま　　しゃかい　　なか　　わす　　さ　　ひと　　にんたいづよ
く今すぐ、社会のただ中で、忘れ去られる人がいないようにと、忍耐強
　　なき　　ぶか　　じまん　　たか　　れいせつ　　まも　　りえき　　もと
く、情け深く、ねたまず、自慢せず、高ぶらず、礼節を守り、利益を求
　　うら　　あい　　い　　ひと　　ひつよう
めず、いらだたず、恨みをいだかずに、愛に生きる人が必要です。

　　さきい　　ふあん　　なか　　ぎしんあんき　　ふか　　しゃかい　　だね
そして、先行き不安の中で疑心暗鬼が深まる社会にあつて、パン種だねのよ
　　かみ　　したが　　ちつじよ　　かみ　　くに　　さが　　もと　　しょうめい　　い
うに、「神に従って秩序づけながら神の国を探し求める」召命しょうめいに生
　　ひと　　そんざい　　いじょう　　ひつよう
きる人の存在が、これまで以上に必要です。

かみ　　よ　　とくべつ　　ひと　　む　　みな
神からの呼びかけは、特別な人にだけ向けられているのではなく、皆さん
ひとり　　む
一人ひとりに向けられています。

ぼくしゃ　　こえ　　しゃかい　　おお　　ひび　　わた　　ひと
牧者であるキリストの声が、社会に大きく響き渡るように、すべての人
　　とど　　つと　　かみ　　あい　　い　　せい　　もの
に届くように、努めましょう。神の愛に生きることによって、聖なる者と
なりましょう。

よ　　お　　おも　　しんらい　　こえ
世の終わりまでともにいてくださる主に信頼しながら、その声がすべての
ひと　　こころ　　ひび　　わた　　ひとり　　あた
人の心に響き渡るように、わたしたち一人ひとりに与えられている
しょうめい　　み　　なお
召命しょうめいを見つめ直してみましょう。